

墨田区における協働事業の事例

① 「成人を祝うつどい」

「成人を祝うつどい」（成人式）は、平成 13 年度より新成人による実行委員会形式で企画・運営を行っている。これまで 7 回実施。



□ 経緯

平成 13 年当時、成人を祝う行事については、各地で新成人のマナーの悪さがマスコミ等を賑わしていた。当時、墨田区では大きな混乱は生じていなかったが、多数の新成人が会場内に入らずロビーにたむろしていたり、会場内で私語を話したりといった状況が見られた。そのような中、「区長と新成人とのつどい」にて、新成人より「企画段階から成人式に参加したい」という意見があったため、当年度より実行委員会を組織した。

□ 効果

同じ新成人が企画・運営していることに共感を覚えることもあり、実行委員会形式にしてからは、ロビーにたむろする者や式典途中での退場者が減少した。

□ 実行委員会の概要

- ・新成人 15 人程度で結成（公募と青少年育成委員の推薦による）。委員への謝礼等はなし。7 月から本番まで、全 20 回程度の委員会を開催している。
- ・例年、人がなかなか集まらないことが課題となっており、公募は少ない。

それでも「協働」でやって良かった！

□ 職員ヒアリング 実行委員会形式にしたことのメリット

みんなの思いで手作りの成人式ができる。連帯感が生まれる。

- ・みんなで作って、みんなが喜んでくれる、手作りの成人式ができること。
- ・今まで役所に馴染みがなかった新成人も、実行委員会を通して職員と関わり、両者に連帯感が生まれた。

□ 職員ヒアリング 実行委員会形式にしたことのデメリット

時間と手間が大きくかかる。

- ・テーマ・企画内容・記念品などを決定する際に、行政主導で実施するよりも膨大な時間と手間がかかってしまう。
- ・実行委員会を夜に開催するため、事務局の負担が大きい。

【過去の実行委員の声】

姉の友人が実行委員をやっていたのを見ていて、自分もやりたいとずっと思っていたので公募しました。良かった点は、素晴らしい思い出がくれたことと、人前で話をする自信がついたこと、志の高い友人が増えたことです。忙しさも含めて、大変なことはなにもありませんでした。

成人式本番の日、式典が終わるまで携帯の電源を切っていたのですが、すべて終わって電源を入れると、すごい数のメッセージが入っていました。すべて友人からで、「成人式よかったよ！」とほめてくれたのです。

②「隅田公園さくらパートナーシップ」

平成 16 年から行っている「墨堤の桜の保全・創出事業」で、隅田公園の桜を守るためのボランティア組織として、平成 18 年 3 月に「隅田公園さくらパートナーシップ」が発足。現在も活動中。



□ 経緯

区では、平成 15 年度に策定した墨堤の桜に関する長期構想で、隅田公園を通じて「地域コミュニティをさらに活性化していく」ことをコンセプトの一つとして掲げ、平成 16 年度に「隅田公園ボランティア講座」、平成 17 年度に「隅田公園パートナーシップ実践活動」を実施してきた。そして、平成 18 年 3 月には、区とのパートナーシップ宣言が行われ、ボランティア団体「隅田公園さくらパートナーシップ」が発足。「桜の保全活動」「間伐材の利用活動」「隅田公園 PR 活動」の 3 グループにより自主活動が行われている。

□ 効果

樹木医や造園管理など高度な専門知識を持つメンバーが在籍しており、活動レベルが非常に高い。桜の保全活動においては、何よりも「墨堤の桜」への熱い思いがあるメンバーが集まっているため、日々の桜の生育調査、施肥、害虫駆除など、きめ細かな区民による目配りがあり、区との情報連絡が可能となっている。

□ 隅田公園さくらパートナーシップの概要

- ・現在 26 名で結成。うち 3 分の 2 が平成 16 年度からのメンバーで、残りが新メンバー。若い人の参加があれば、もっと活動範囲が広がってくる可能性がある。メンバーへの謝礼等はなし。
- ・運営は購買品の実費のみ。「都市緑化基金」（20 年度から助成金を受ける）と区の予算（需用費）で支出。ただし、道具類のほとんどはメンバーが私物を持ち寄っている。
- ・メンバーは地元町会、個人ボランティア、企業社員などさまざま。

メリットもデメリットもある。それでも「協働」でやって良かった！

□ 職員ヒアリング パートナーシップ活動のメリット

思いがあるからこそ効果生まれる。職員もそれを学ぶ。

- ・区民の方と直接つながりが持てること。信頼関係が生まれた。
- ・パートナーシップのメンバーは桜をいつも良く見ている。これは地元の桜を守りたいという「思い」があるからこそ。委託業者にはないものだと思う。
- ・桜の知識がハイレベルなメンバーもおり、話を聞くと勉強になる。情報ももらえる。

□ 職員ヒアリング パートナーシップ活動のデメリット

コーディネーターの役割が重要。自分の時間がとられることも。

- ・意欲的な方ばかりだからこそ、メンバー間で意見が衝突する。その調整が大変。
- ・活動はもちろん、活動以外のところで勤務時間外の「お付き合い」もある。時間がとられると感じることもある。

【パートナーシップメンバーの声】

パートナーシップに参加する前から、愛護会として隅田公園の清掃活動を行っていましたが、ここ数年、桜の木に元気がなくなってきていると感じていました。パートナーシップには、桜の木を守りたい、これまで自分たちを楽しませてくれた桜にお礼をしたいという気持ちから参加しました。